

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会
第34回システム安全専門部会議事録

1. 日 時 2015年11月30日(月) 10:00~12:05

2. 場 所 5 東洋海事ビル A+B 会議室

3. 出席者(敬称略)

(出席委員) 岡本部長, 中村副部長, 西村幹事, 青木, 阿部, 上野, 勝村, 鎌田, 後藤,
西田, 久宗, 福谷, 巻上, 三村, 宮地, 宮原, 山岸 (17名)

(欠席委員) 北島 (1名)

(委員代理) 堀内知英(関西電力/小野岡代理) (1名)

(常時参加者) 河井, 成宮 (2名)

(欠席常時参加者) 江畑 (1名)

(説明者) 【水化学管理分科会】北島英明(幹事/原子力安全推進協会), 都筑康男(常時
参加者/原子力安全推進協会), 【PLM分科会】中川信幸(幹事/原子力エンジニア
リング)伊藤慎吾(常時常時参加者/原子力エンジニアリング)(4名)

(オブザーバ) 都筑康男(原子力安全推進協会) (1名)

(事務局) 中越, 谷井 (2名)

4. 配付資料

配付資料

- | | |
|-----------|--|
| STC34-0 | 第34回システム安全専門部会 議事次第(案) |
| STC34-1 | 第33回システム安全専門部会 議事録(案) |
| STC34-2 | 人事について |
| STC34-3-1 | 原子力発電所の高経年化対策実施基準の改定(追補1)について(案)(本報告) |
| STC34-3-2 | PLM実施基準2008(追補1~3を含む)のJSME誤記問題の対応状況 |
| STC34-4-1 | 「標準委員会・用語集」に関する作業依頼 |
| STC34-4-2 | 「標準委員会・用語集」に関する中間報告 |
| STC34-5-1 | 誤記対応における『重要度高の標準の選定』及び『緊急度の高い標準の誤記確認作業』に関する依頼 |
| STC34-5-2 | 誤記対応における『重要度高の標準の選定』及び『緊急度の高い標準の誤記確認作業』に関する結果 |
| STC34-6 | 「沸騰水型原子炉の水化学管理指針」及び「加圧水型原子炉一次系の水化学管理指針」の検討状況について |
| STC34-7-1 | 「継続的な安全性向上対策採用の考え方について」システム安全専門部会及び標準委員会意見募集結果 |
| STC34-7-2 | 「継続的な安全性向上対策採用の考え方について」システム安全専門部会及び標準委員会意見対応 |
| STC34-8-1 | 会合出欠管理表及び委員名簿の提出(依頼)について(依頼) |
| STC34-8-2 | システム安全専門部会出欠管理表(報告) |
| STC34-8-3 | 5カ年計画更新の作業依頼(報告) |
| STC34-9 | 分科会の活動状況について |

参考資料

STC34-参考1 システム安全専門部会委員名簿

STC34-参考2 標準委員会の活動状況について

5. 議事内容

事務局から開始時、委員19名中18名が出席しており、成立に必要な定足数（13名以上）を満足している旨報告があった。

(1) 前回議事録（案）の確認（STC34-1）

前回議事録（案）について事前に配付されていた内容で承認された。

(2) 人事（STC34-2）

STC34-2に基づいて、専門部会及び分科会の人事について以下のとおり審議を行った。

1) 専門部会

① 委員の所属変更の確認

阿部 弘亨 東北大学→東京大学
審議の結果、上記案について確認された。

2) 分科会

① 委員退任の確認

【PLM分科会】

萬年 毅（東電設計）
金島 慶在（関西電力）

② 委員新任の承認

【PLM分科会】

松藤 隆幸（東電設計）
北条 隆志（関西電力）

③ 委員の所属変更の確認

【炉心燃料分科会】

阿部 弘亨 東北大学→東京大学

【シビアアクシデントマネジメント分科会】

阿部 弘亨 東北大学→東京大学

④ 常時参加者登録の確認

【シビアアクシデントマネジメント分科会】

長谷川 国広（日本原電）
金沢 孔明（規制庁）

⑤ 常時参加者登録解除の確認

【シビアアクシデントマネジメント分科会】

伊藤 伸郎（日本原電）

審議の結果、上記案について承認又は確認された。

(3) 【本報告・審議】 P L M基準（追補1）について（STC34-3-1, STC34-3-2）

P L M分科会の中川幹事、伊藤常時参加者からSTC34-3-1に基づいて、” 原子力発電所の高経年化対策実施基準（追補1） ” について報告があり、改定の方針について確認され、審議の結果、30日間の決議投票に移行することが決議された。

また、STC34-3-2に基づいて、P L M基準2008（別冊を含む）の誤記対応を分科会で実施中であることが報告された。

(4) 【報告】 「標準委員会・用語集」について（STC34-4-1, STC34-4-2）

システム安全専門部会の西村幹事からSTC34-4-1, STC34-4-2に基づいて, ”標準委員会・用語集”について中間報告があった。主な質疑は以下のとおりである。

耐震安全性評価と耐津波安全性評価の定義は、PLM基準における定義を記載しているが、経年劣化に特化した記載となっているので、一般的原子力用語とする際には、用語集としての記載を検討する必要がある。

(5)【報告】誤記対応における『重要度高の標準の選定』及び『緊急度の高い標準の誤記確認作業』について(STC34-5-1, STC34-5-2)

システム安全専門部会の西村幹事からSTC34-4-1, STC34-4-2に基づいて, 誤記対応における”重要度高の標準の選定“及び”緊急度の高い標準の誤記確認作業“について報告があり、PLM基準2008本体(別冊を除く)について、専門部会委員でも誤記確認を行うことになり、分科会での確認を終えた後、2016年2月に確認することになった。

(6)【報告】「沸騰水型原子炉の水化学管理指針」及び「加圧水型原子炉一次系の水化学管理指針」について(STC34-6)

水化学管理分科会の北島幹事、都筑常時参加者からSTC34-6に基づいて, 「沸騰水型原子炉の水化学管理指針」及び「加圧水型原子炉一次系の水化学管理指針」について報告があった。主な質疑は以下のとおりである。

「標準制定の目的が明確ではない」とのコメントに対して, 次回の専門部会において, 水化学管理指針の必要性及び標準化による安全性向上への寄与について議論することとした。

C: 海水注入による水質悪化について, 学会標準やロードマップで検討する必要はないと考える。但し, 新規制基準対応としてフィルターベント等についてはロードマップとして検討する必要があると考える。

C: ロードマップのローリングは必須であり, ロードマップのローリングと学会標準の制定はリンクすべきではない。(ロードマップの成果を標準として取り込むことについては, 学会標準に明記する必要がある)

(7)【報告】「継続的な安全性向上対策採用の考え方について」システム安全専門部会及び標準委員会意見募集結果と対応、及び最終報告案について(STC34-7-1, STC34-7-2)

事務局からSTC34-7-1に基づいて, 技術レポート”継続的な安全性向上対策採用の考え方について”の標準委員会意見募集結果について報告があった。引き続いて, 安全性向上対策採用の考え方に関するタスクの河井幹事からSTC34-7-2に基づいて, システム安全専門部会及び標準委員会での委員からの意見への対応について報告があり異議は無く, 標準委員会への報告が了承された。併せて, 委員会サイトを利用した約30日間の意見募集を行うこととなった。また, 岡本部会長からバックフィットのあるべき姿を学会としてもっとクリアに打ち出して欲しいとの強い要望があった。

(8)その他(次回日程等)

次回第35回システム安全専門部会は2016年3月3日(木)10:00から開催することとなった。

以上